

# 学力向上のための重点プラン 学期末【小学校】新宿区立落合第六小学校

## ○ 成果と▽ 課題

### 【第1学年】

- 100冊読書の取組によって、様々な作者、様々なジャンルの本を手に取り、読むことができた。
- 毎時間の計算練習や計算フラッシュの時間の成果が表れ、指を使わずに計算ができる児童が9割を超えた。
- △算数では具体物を活用しながら学習を進めたが、複雑な問題になると立式が難しい児童が見られる。
- △同音異義の漢字の使い分けが難しい児童が見られる。

### 【第2学年】

- 探究ノート、復習テストを繰り返し活用したことで、漢字習得の意欲が向上し、8割以上の児童が2学年で学習する漢字をおおむね習得している。
- 九九の百ます計算を継続して取り組み、答え合わせをクラス全体で実施しながら、九九を覚えることで、9割以上の児童が九九を習得した。
- 「いいねカード」の他、グループ内での発表活動で集中して聞く姿勢を保持することで、全体でも話を聞く姿勢が保てる児童が増えた。
- △書字や繰り返し練習が苦手で、漢字や九九の習得が難しい児童が見られる。
- △聞く姿勢だけでなく、読み書きの姿勢を保持することが難しい児童が見られる。

### 【第3学年】

- 国語での話し合い活動や理科のグループでの実験・考察などで、他者と意見を共有、交換することを通して、自分の意見と比較しながら話したり聞いたりすることができるようになった。
- 学習の流れを児童と確認し、学習の最後の振り返りで、調べたことをまとめたり自分の考えを書いたりする活動を増やしたことで、8割程の児童が見通しをもって学習に取り組み、スムーズに意見をまとめることができるようになった。
- デジタルドリルを学習のまとめや宿題に採用することで、計算など基本的なことは8割以上の児童がおおむねできるようになった。
- △かけ算や割り算の文章題で、正しく立式するのが難しい児童が見られる。
- △辞書やローマ字入力など、言葉の活用の習得に個人差が見られる。

### 【第4学年】

- 主体的に基礎的な学習に取り組み、成果につなげることができた。また、自主的に課題解決に取り組む大切さを感じた児童も見られた。
- △言語（国語）能力、「話す・聞く」「読む」など、国語の学習に関わる領域だけでなく、算数などの他教科の学習の基本となる『問題把握』に課題が残る。
- △学習に向かう力（主体的に学習しようとする態度）、自己調整力（計画的に、見通しをもって学習に取り組む力）に課題が残る

### 【第5学年】

- 国語「話すこと・聞くこと」については、相手の考えを受け取りながら自分の考えを見直し、分かりやすく伝えることができた。
- 国語「書くこと」については、作文ノートを用いることで、感じたことや伝えたいことを具体的に書けるようになった児童が多くみられた。
- 新宿区学力定着度調査の結果を見ると算数の「知識・技能」は区平均とほぼ同じであることから、基本

的な知識・技能の習得はできていることが分かる。

△国語「書くこと」について、自分の考えを言語化できず、ノートに書くことができない児童がみられた。  
△算数の数学的な見方・考え方を広げる時間が不足していたため、思うように力を伸ばすことができなかった。

△新宿区学力定着度調査の結果を見ると国語の「話すこと・聞くこと」について、区平均より4ポイント低い。次学年では、相手の考えを理解しようとする力を伸ばしていく必要がある。

#### 【第6学年】

○算数の「知識・技能」は区平均とほぼ同じで、体験活動やタブレット端末を活用した復習など、個別最適な学びを行ってきた成果と言える。

○国語の「知識・技能」は区平均とほぼ同じで、漢字や言葉に関する家庭学習を継続して取り組んだり、定期的に確認テストを行ったりするなど、スモールステップを積み重ねた成果と言える。

△算数の「思考・判断・表現」は区平均より3ポイント低い。既習事項を関連させて思考したり、論理的に説明したりと、応用する力が不足していることが分かる。

△国語の「思考・判断・表現」は区平均より6ポイント近く低い。設問や問題文を的確に読み取ったり、自分の考えを順序だてて書き表したりなどの、応用する力が不足していることが分かる。

#### ■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】

【区教委提出用・様式2】

- ☒ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 学校は活用の際に、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☒ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☒ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☒ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☒ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

#### ■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

- ・結果帳票の返却の際に、問題の書き直しを行った。
- ・新宿区学力調査の結果と個別に連携したデジタルドリルを活用して、学力の定着を図った。

#### ■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・学期末の復習として家庭学習でデジタルドリルに取り組ませた。
- ・単元末の復習として、授業時間内でデジタルドリルに取り組ませた。
- ・家庭学習や夏季休業中の課題としてデジタルドリルに取り組ませた。
- ・休校中や学級閉鎖時の課題としてデジタルドリルに取り組ませた。